

日本語 CALL 聴解練習用教材の試行⁽¹⁾

多和田眞一郎・水町伊佐男・茅本百合子*・桑原陽子*

The Trial Use of the Japanese CALL Materials for Listening Comprehension Practice

TAWATA Sin'icirou, MIZUMACHI Isao, KAYAMOTO Yuriko, KUWABARA Yoko

1. 本稿の目的

過去に研究・開発された日本語 CALL のコースウェアを検討し（水町・多和田・山中 2002）、その結果に基づき、聴解練習教材として『聴解：日本の生活「アパートに住む」』の CD-ROM 教材を作成した（水町・多和田・山中 2003）。2002 年度の前期に、日本語学習者の特別クラスを編成し、試行版の CD-ROM を用いて試行し、CD-ROM 教材に対する学習者の印象評定を求めると共に効果測定を行った。本稿では、日本語 CALL 聴解練習に係わる内容と方法及び評価について検討する。また、学習者の学習活動を事例として記述する。これらのことから、本教材の評価のあり方を検討する。

2. 試行クラスの概要

2002 年 5 月～6 月、広島大学の留学生に試行参加希望者を募り、特別クラスを編成した。学習者はパソコン室（Macintosh）で一人 1 台使用して CD-ROM を約 1 時間内で各自の進捗で学習した。

クラス開始時に、聴解テストと語彙テストを行った。全 4 コース終了後、事後テスト（事前テストと同一の聴解テストと語彙テスト）を行うと共に、CD-ROM 教材に対する印象評定を調査した。

プリ・ポストテストを受け、印象評定調査に記入し、かつ学習履歴に欠損がないと思われる者は 9 名であり、母語は全員が中国語であった。日本語学習歴は平均 26.1 カ月で、学習者のレベルは自己申告による 5 段階評価では中級であった（表 1）。

表 1 学習者の学習レベル（5 段階による自己申告）

スキル	読む	書く	話す	聞く	全体
平均	3.1	2.4	2.4	2.8	2.8

3. 学習者の印象評定

全コース試行終了（日本語学習）者の印象評定（5 段階評定）では、項目別印象評定（表 2）のように全項目群で評定値が高く、全体的には好印象をもって受け入れられたと考えることができる。

表2 全コース試行終了(日本語学習)者9名の印象評定(5段階評定)

印象評定項目群(項目数)	日本語学習者(9名)の評定値の平均
ステップ1のタスク(3)	4.3
ステップ2のタスク(6)	4.3
ステップ3のタスク(5)	4.5
全体的評価(15)	4.3

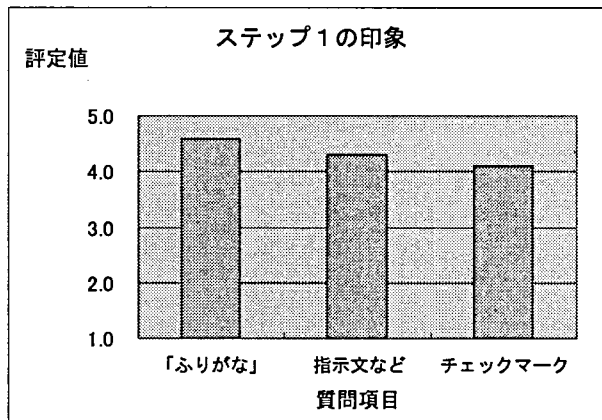
これらを更に詳細に検討する。

(1) ステップ1について

中級の学習者であっても、「ふりがな」を多用していることがわかるとともに、それが歓迎されていることもわかる。

「指示文など」「チェックマーク」も評定値が高い。

<図1 ステップ1の印象評定のグラフ>

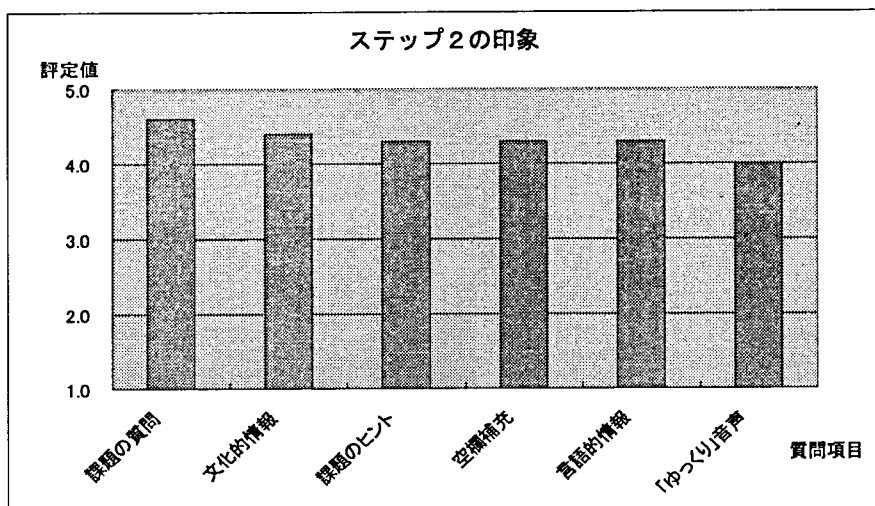


(2) ステップ2

評定値が4以上であれば、高評価と考えられる。「課題の質問」「文化的情報」「課題のヒント」「空欄補充」「言語的情報」ともにその範疇に入ることがわかり、この教材が望ましいものであることを物語っている。

「ゆっくり」音声の評価が高くないということは、逆に言えば、自然なスピードが歓迎されているということになる。教材作成の際の留意点となろう。

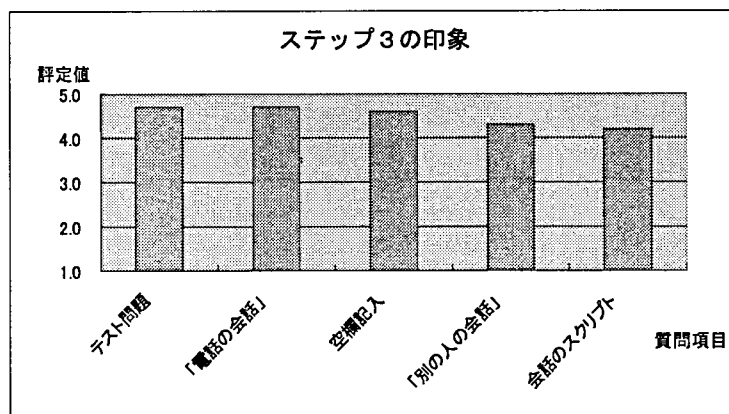
<図2 ステップ2の印象評定のグラフ>



(3) ステップ3

「テスト問題」「電話の会話」「空欄記入」は評定値が高いが、「別の人の会話」と「会話の SCRIPT」は高くない。親切に、サービスとしてつけた面もあるのであるが、それが反映された形となっている。しかし、評定値が、全て4.0を越えていることから評価が低いとは言えないだろうから、歓迎されていないというのではない。

<図3 ステップ3の印象評定のグラフ>



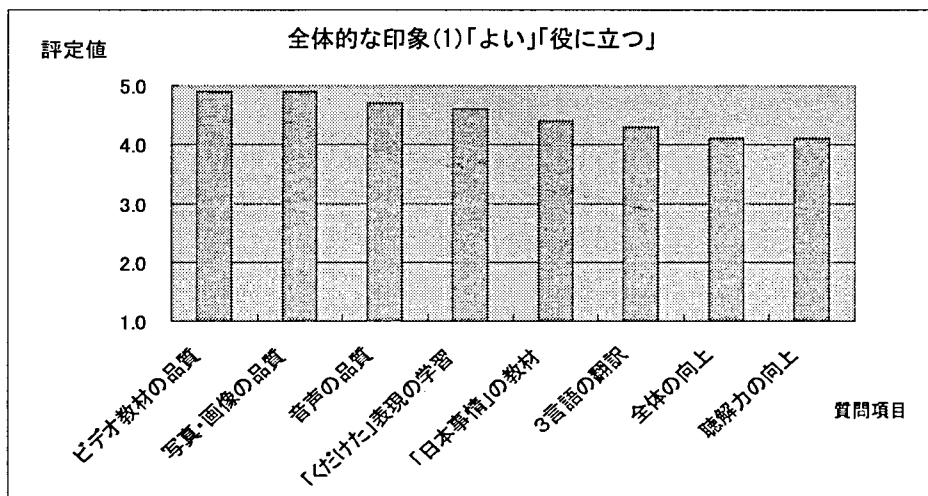
(4) 全体的な印象—その1

「ビデオ教材の品質」「写真・画像の品質」「音声の品質」は、教材の中身そのものではないが、「作り」も大事であることを示す結果となっている。

教材そのものの中身としては、「くだけた」表現の学習・「日本事情」の教材・3言語の翻訳ということになるが、総じて高い評定値を得ている。

「全体の向上」と「聴解力の向上」が、やや評定が下がるが、あくまでも主観的な評定であるから、そのように受け取るべきであろう。客観的にはどうなのか。次の試行では、その観点も導入することになる。

<図4 全体の印象評定のグラフ その1>

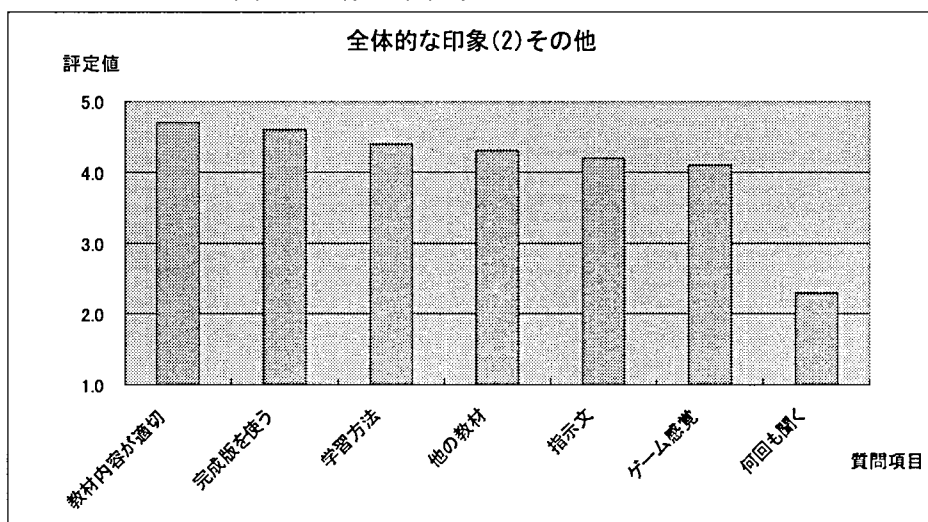


(5) 全体的な印象—その2

「何回も聞く」の評定値が極端に低い。繰り返すことは、しつこい・変化がない・面白くないというマイナス面の印象につながる可能性が高い。しかし、反復なしには言語の上達はありえないわけで、この教材の眼目もここにある。このことを十分に理解させる必要がある。

しかし、「教材内容が適切」と判断し、「完成版を使う」希望を抱いた者の割合が高く、「学習方法」も支持されているから、結果的には「何回も聞く」を肯定したことになる。

<図5 全体の印象評定のグラフ その2>



(6) 自由記述

(6) - 1 どんな点がいいと思いますか。

「日本でアパートに住むことについて、色んな情報がある。」「何回も聞くことができ、説明ははっきりしている。」「テキストのヒントがいいと思う。」「画像の品質やテキストの内容がいいと思う。」「内容がいいと思う。」「日常生活とすぐくつながっている。」「テキストの内容や話し方は実際の生活に深く関係している。」「能力試験一級を目指している人にとって、何度も繰り返すことができ、自分のペースにあわせて、勉強を進めることに役に立つと思う。」「話のスピードを調節することができる。」「何回も聞くことができるのがいいと思う。」「日本の生活を表した。内容や音声がいいと思う。」「何度も繰り返して聞くことができる。日本事情や話し言葉を勉強することができる。」「このような教える方法がいいと思う。」

(6) - 2 どんな点がよくないと思いますか。

「ステップ2のある質問がよくない。」「もし教材内容(テキスト)に英語の内容があれば... 文法の説明はとても簡単だと思う。」「『電話の会話』の部分はあまり効果的じゃないと思う。」「『電話の会話』と『別の人の会話』は効果的じゃないと思う。」「よくない点がない。」「文法と言葉の説明が多いほうがいい。」「会話の内容は大学内での、二人きりの話しかなかったの、もっと現実的な幅広い会話であればよかった。」「テストの問題がとても簡単だった。」「何回も同じ内容を繰り返し、いらいらしちゃう。」「勉強する時、自分で発音の練習ができないのはよくないと思う。」「CDのなかで、いろんな難しい漢字の読み方がわからなくて、本とCDと一緒に勉強できたらいいなと思う。」「勉強過程のメモリは『終わる』ボタンを押さないとメモリできない、記録ボタンがあったほうがいいと思う。勉強する過程の記録があると、比べることができ、自分がどのように上手になるのがわかる。」「自然さがちょっと足りなかった。」

全体の印象評定のグラフによると、「何回も聞く」の評価が低い。このことと、自由記述の中の「何回もきくことができるのがいい」というコメントとが相反しているようにみえる。これは「何回も聞く」の意味のあいまいさからきたもののように思われる。質問項目として妥当であったかどうかも含めて今後の検討課題となる。

(6) - 3 100点満点で点数化したら、この教材の評価は何点でしょうか。

86.7点

(6) - 4 全体的な印象はどうでしたか。

「いいと思う。」「結構いい教材で、友達に勧める。」「よかった。」「全体的には日本の学生生活を表現されたと思う。」「いいと思う。」「使いやすい、いい教材だ。」「中、上級向きで、初級の人にはちょっと難しいと思う。」「いい。」「OK! Better!」「他人の話をありのまま、覚えられる。」「OK!」「とてもいい教材だ、聴解力の向上に役に立つと思う。」「す

ばらしかった。」

(6) - 5 その他、意見や感想があれば書いてください。

「外国人にとって、この学習方法がいいが、内容が少ないと思う。」「楽しく勉強できた。」
「勉強しやすい。」「いろいろ日本語の表現や事情を勉強することができて、ありがとうございました。」
「CDはいろいろな間違いがあるので、もっと正しいCDがあれば、よかったと思う。」
「このCDは日本語が入ってないコンピュータで勉強することができますか、もし同じように幅広く勉強できればとてもいいです。」
「今後、日本語教育にはこういうような方法を使えばいいと思う。」

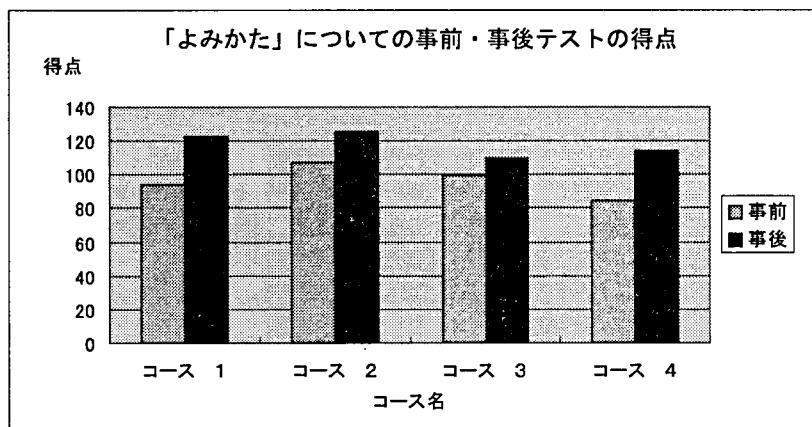
4. 学習効果の測定

聴解力の向上があったかどうかを測定するために、語彙力と聴解力の測定をした。

(1) 語彙力

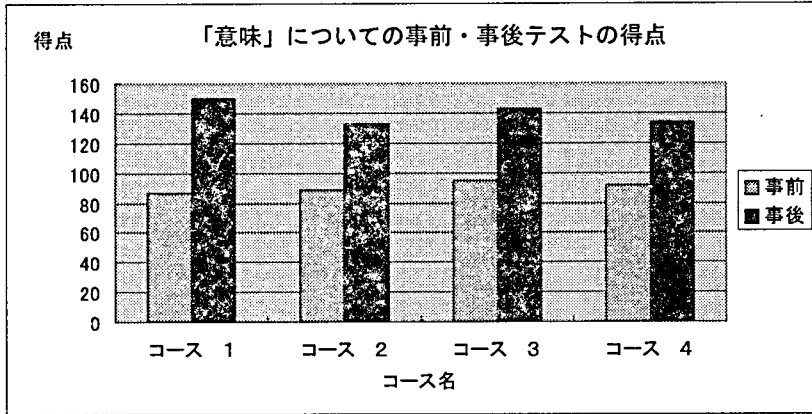
「よみかた」のコースごとの結果を図6に示す。各コースの事前テスト、事後テストの成績について、 2×4 の分散分析を行った結果、テスト時期の主効果のみが有意であった ($F(1,8)=14.02, p<.01$)。このことから、全てのコースで、事前テストよりも事後テストのほうが有意に成績が高くなっていることが示された。また、コース間に成績差がなかったことから、コース間で課題の難易度に差がなかったことが示された。

<図6 語彙テスト1（「よみかた」についての事前・事後テストの得点のグラフ）>



「意味」のコースごとの結果を図7に示す。「よみかた」の結果と同様に、 2×4 の分散分析を行った結果、テスト時期の主効果のみが有意であった ($F(1,8)=41.82, p<.001$)。このことから、「よみかた」のテストと同様に、全てのコースで、事前テストよりも事後テストのほうが有意に成績が高く、コース間で課題の難易度に差がなかったことが示された。

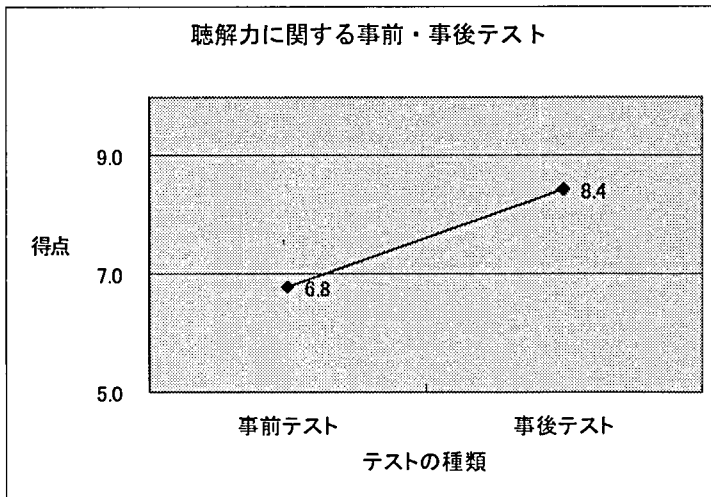
<図7 語彙テスト2 (「意味」についての事前・事後テストの得点のグラフ)>



(2) 聴解力

アパートについての教材であるので、その予備知識（能力）を試す意味で、アパートを借りる際の「保証人」に関する聴解問題を作成して「事前テスト」「事後テスト」を行った。結果について、t検定を行ったところ、事前テストと事後テストの差が有意であった ($t(8)=3.55, p<.01$)。このことから、教材使用によって聴解力が伸びていることが示された。

<図8 自作聴解テスト (プリ・ポスト) のグラフ>



5. 学習者の学習行動：ケーススタディ：Aさんの場合

学習履歴を分析した。そのあらましを以下に示す。

母語は中国語，初級，日本語学習歴1年である。

(1) ステップ2及びステップ3における設問数と解答状況

表3 ステップ2と3の無・誤答数

コース	ステップ	設問数	無解答または誤答の数
コース1	ステップ2	51	12
	ステップ3	24	53
コース2	ステップ2	48	1
	ステップ3	22	41
コース3	ステップ2	44	1
	ステップ3	20	18
コース4	ステップ2	40	7
	ステップ3	22	53

(2) ステップ3における「テスト」の結果

表4 レッスン別「テスト」の得点と「聞く」ボタンのクリック回数

レッスン名	設問数	得点	S1「聞く」	S2「聞く」	S3「聞く」
C1L1	9	70	7	81	42
C1L2	6	50	10	60	25
C1L3	10	60	13	66	12
C2L1	8	100	10	49	34
C2L2	7	60	5	40	17
C2L3	9	55	7	64	23
C3L1	9	80	8	34	12
C3L2	8	100	4	72	25
C3L3	10	100	6	60	41
C4L1	5	60	2	53	15
C4L2	7	60	3	68	10
C4L3	5	100	2	54	19
計(平均)	93	(81.5)	70	701	275

注：Cはコース (Course) ,Lはレッスン (Lesson) の略

6. コースウェアの評価

全員が100%満足する教材は有り得ないと言える。意見・利用法の違いがあり、「完璧」な教材はない。

教師の教材観・教育観・指導理念・言語観・好み・工夫・熱意によって、教材は生きてくるのである。

効果は学習者のニーズ・レベル・利用方法などに左右されるので、教師の指導が必要となる。教材・教授法の一つとして位置づけることができよう。

参考文献

- 水町伊佐男, 多和田眞一郎, 山中恵美 (2002) 「日本語 CALL 聴解練習用教材開発の検討」『広島大学日本語教育研究』第 12 号 (広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座), pp.17-23.
- 水町 伊佐男・多和田 眞一郎・山中恵美 (2003) 「日本語 CALL 聴解練習用教材の開発」『広島大学日本語教育研究』第 13 号 (広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座)
- 竹蓋幸生 (1996) 『英語教育の科学』株式会社アルク
- Vandergrift, L. (1999) Facilitating second language listening comprehension: acquiring successful strategies, *ELT Journal*, Vol. 53/3, 168-176.

*研究協力者

(1)

文部科学省科学研究費補助特定領域研究 (A) 「高等教育改革に資するマルチメディアの高度利用に関する研究」(A02) の中で、「外国語教育の高度化の研究」の一部のカ班「外国語 CALL 教材の高度化の研究」(研究代表者: 竹蓋幸生・千葉大学名誉教授) に、研究分担者として水町伊佐男と多和田眞一郎が参加し、研究協力者等の協力を得て、日本語CALL教材を作成した。